

令和6年度 高校生防災アクション 実施報告書

学校名	岐阜県立武義高等学校				
テーマ	地域社会の一員としての自覚をもち、災害を身近なものとしてとらえ、高校生の立場で地域の災害対応力を高める				
目 標	・生徒自身の防災・減災意識を向上させる。 ・地域とのかかわりの中で防災意識を高める。				
主な取組	美濃市役所に本年度新設された、武義高生のみでつくる「美濃市 未来創造課」の生徒を中心に、武義高校ビジネス情報科の生徒と、岐阜県中濃県事務所、中濃消防組合、命を守る会、美濃市建設協力会、自衛隊岐阜地方協力本部美濃加茂地域事務所、陸上自衛隊第35普通科連隊が協力して、美濃市民に向けて「美濃市体験型防災フェスタ in 武義高」を開催した。 このイベントでは、「美濃市防災かるた」大会、VRを活用した防災体験、自衛隊炊き出し訓練（自衛隊コロッケ無料配布）、自衛隊足湯体験、地震体験車、防災啓発パネル展示、防災クイズなどが企画され、災害そのものや被災後の生活への関心を高める機会とした。 未来創造課の生徒は、美濃市HPに専用のページを設け、You Tube を利用した事前広報を行ったり、事後活動として日本赤十字社岐阜支部へ義援金を渡したりした。 美濃市HP／2024年10月6日開催 防災フェスタ in 武義高（当日の様子） https://www.city.mino.gifu.jp/docs/1782576.html				
目標に対する成果	減災力テスト	3年生			
		平均点	1回目	75.6	2回目 74.2
目標に対する今後の課題	イベントを企画した未来創造課に所属する生徒はもちろんのこと、その他の生徒も企画の補助をしたり、企画に参加したりする中で、防災意識を高める機会となった。減災力テストは、イベント実施直前の10月上旬と、イベントからしばらく経ったあとの12月上旬に実施しており、昨年の本校平均（1回目平均点：59.96点／2回目平均点：64.02）よりいずれも高い数値である。その数値の定着もみられる。また、昨年度課題となっていた自助的な「地震直後の対応」の項目（特にQ8・9）に関する数値が高まっている。このことから、参加型イベントである「防災フェスタ in 武義高」の取り組みは、生徒自身の防災・減災力の向上に役立ったと考えられる。 イベントには、多くの地域の方々が参加してくださり、地域の防災意識向上につながったと考えられる。地域交流の場としてもよい機会になったのではないだろうか。実際に災害が起き、被災した場合には、生徒同士や教員だけでなく、地域の方々とも関わりながら避難生活を送ることとなる。イベントを通して、普段かかわりのない年齢層の人とかかわりを持つことはそういった意味で一定の効果はあったと考えられる。ただ、減災力テストの「災害から命を守る近所づきあい」に関するQ17～Q20への回答は、個人の防災・減災力に関するQ1～16への回答と比べて平均点が低くなっている。地域交流の場とはなっても、そこから生徒自身が地域と関わりを持ったり、話し合いの場を持ったりできているかということ、できている生徒もいるが、そこまでには至っていない生徒もまだまだ多いことが見えてくる。				
	減災力テストの平均点から、「防災フェスタ in 武義高」の取り組みが防災意識の向上につながる事がわかる。今後も災害への対応力を高めるため、有用な機会となるようにしていく必要がある。また、各自の防災意識の向上だけでなく、「災害から命を守る近所づきあい」に関連して、地域との連携をもてるようになるには、どのような取り組みが必要か、効果的かを考えて企画できるとよりよいイベントとなるだろう。そのために、地域の方々や組織とどのように継続して連携していくかも課題になっていく。				

次年度の 取組 (本年度の学びをどの ように引き継ぐか、ま たは深めるか)	まずは職員間で今年度の現状を、課題を含めて引き継ぎを行い、今後の取り組みをともに考えていく。学校としては、「防災フェスタ in 武義高」だけでなく、「命を守る訓練」ももっと有用なものとなるようにしていく必要があるだろう。減災力テストのQ17～20のような地域の人との交流によって、自分だけでなく周囲の人を含めて被害を減らせるようにする共助につながる取り組みは、防災の取り組みとして目が向きにくい、企画しにくいという面がある。これらについても、向上を図れるような取り組みを考えられると、本校の防災に対する取り組みはより一層深まるだろう。
---	--